

# 国際結婚の課題探る

## 外国人女性巡りシンポジウム 静岡



静岡市女性会館は8日、同市葵区のアイセル21で「国際結婚した外国人女性が直面する困難」と題したシンポジウムを開いた。同日の「国際女性デー」にちなんだ企画で、支援に従事する関係者ら約40人が参加した。

(社会部・大須賀伸江)

### 「声に耳傾け支えて」

多言語対応の相談体制や外国人同士の交流環境を整えた「多文化共生の先進地」として知られる大阪府豊中市のとよなか国際交流協会の山根絵美さんが講演した。山根さんは夫のドメスティックバイオレンス(DV)や勝手に離婚届を提出されるといった深刻なケースから、「日本の離乳食の作り方が分からない」などの外国人女性

外国人女性を取り巻く課題について説明するとよなか国際交流協会の山根絵美さん11日、静岡市葵区のアイセル21

性の日常的な悩みまを必要がある」と訴えでを示し、「マジョリティ側は、彼らの声に耳を傾ける必要がある」と訴えた。県内では外国人女性のDV被害に関する調査が行われるなど、当事者を取り巻く課題が可視化されつつあり、調査に携わった県立天の高畑幸准教授は関連資料を示した。母親がフリーピン出身である県立天大学院の大田貴さんは国際結婚の夫婦の子として育った経験を示し、「文化的な違いだけで人格を判断せず、個性に向き合ってほしい」と述べた。

調査が行われるなど、当事者を取り巻く課題が可視化されつつあり、調査に携わった県立天の高畑幸准教授は関連資料を示した。母親がフリーピン出身である県立天大学院の大田貴さんは国際結婚の夫婦の子として育った経験を示し、「文化的な違いだけで人格を判断せず、個性に向き合ってほしい」と述べた。